

平成29年度第1回清掃審議会

会議録

平成29年7月18日（火）午前10時開会

会場 新潟市役所本館6階 第4委員会室

平成29年度 第1回清掃審議会会議録

日時 平成29年7月18日（火）

午前10時から

会場 新潟市役所本館6階 第4委員会室

- 出席委員 山賀会長、住吉委員、柴田委員、阿部委員、片粕委員、
斎藤委員、高橋まゆみ委員、中澤委員、星島委員、八子委員
- 欠席委員 菊野副会長、高橋若菜委員、掛川委員、石井委員
- 事務局 長浜部長、伊藤廃棄物政策課長、内藤廃棄物対策課長、小林廃棄物施設課長
ほか

1. 開会

- 石崎廃棄物政策課長補佐（開会挨拶・資料の確認）

- 長浜環境部長：皆様おはようございます。今年度4月から環境部長を務めております長浜と申します。よろしくお願いたします。本日は天候の悪い中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。また、昨年度につきましては皆様方に一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しと、ごみ処理手数料の改定について諮問させていただきまして、6回にもわたるご審議を頂戴したということで大変感謝しております。こういったことをはじめといたしまして、常日頃から皆様には廃棄物行政、環境行政に非常なご尽力を頂戴しておりますことをこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、この後、平成28年度の新潟市の廃棄物の状況等ご報告させていただきますが、かいつまんで私から1、2点皆様にお伝えしたいと思います。1点目は、昨年度の家庭系ごみの1人1日あたりの排出量が27年度に比べまして12グラム減量し、488グラムという結果が出ております。それ以前は500グラム前後を横ばいの状況であったということを考えますと、非常に減少したということで、喜ばしいことだと感じておりまして、その分析につきましてはまたその後の話になるかと思えます。リサイクル率につきましても政令指定都市の中では第2位という状況でございます。こういったことも市民の皆様、事業所の皆様のご尽力のおかげということで、大変感謝しております。また、本日は雨が降っておりまして、新潟市も含めて災害の心配がありますが、先日の豪雨では九州で既に大きな被害が出ていると聞いております。また、昨年度は熊本で地震があり、災害に対してどう対応していくかということで、新潟市におきましても平成27年度に災害廃棄物処理計画を策定しております。いざ災害が起きたときにきちんと対応できるかどうかは平時の備えにかかっているため、この計画が実効性のあるものになるように、単に計画を作っただけで終わらせないような準備を進めていきたいと考えております。皆様方からさまざまな意見を頂戴しておりますので、いただいた意見を十分に生かしながら進めてまいりたいと思っております。

また、昨年度もこの席で報告したと聞いておりますが、巻広域地区におけるモデル事業で、今

までは普通ごみとして収集していたものを燃やすごみと燃やさないごみの2種類に分けて新潟市全体の分別収集方法の統一に向けて分別モデル収集事業をしているということで、今年度また新たなモデル実施地区を加えまして、今のところ96%で事業を実施できております。今年の6月からモデル実施地区を拡大しましたが、一応順調にスタートできているということで、この点につきましても皆様にご報告させていただきたいと思っております。

最後になりますが、本日が皆様の2年間の任期の最後の審議会という予定となっております。この2年間皆様方には本当にいろいろなご意見を頂戴しました。私ども行政と事業者と市民と一体となって進めてこられたことは本当にありがたく、感謝申し上げます。本日の最後の審議会におきましても皆様から自由闊達に忌憚のないご意見を頂戴できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

- 石崎廃棄物政策課長補佐：続きまして、事務局の担当職員を紹介いたします。伊藤廃棄物政策課長でございます。
- 伊藤廃棄物政策課長：よろしくお願いいたします。
- 石崎廃棄物政策課長補佐：内藤廃棄物対策課長でございます。
- 内藤廃棄物対策課長：内藤でございます。よろしくお願いいたします。
- 石崎廃棄物政策課長補佐：小林廃棄物施設課長でございます。
- 小林廃棄物施設課長：よろしくお願いいたします。
- 石崎廃棄物政策課長補佐：当審議会の事務局を担当しております廃棄物政策課企画係でございます。
- 廃棄物政策課企画係：よろしくお願いいたします。
- 石崎廃棄物政策課長補佐：また、このたび委員の交代がございましたので、ご紹介させていただきます。お名前をお呼びしますので、恐れ入りますが、その場にご起立いただき、ご挨拶をお願いいたします。亀田郷土地改良区事務局長の阿部由幸委員でございます。
- 阿部委員：皆さん、おはようございます。今ほどご紹介をいただきました亀田郷土地改良区の事務局長の阿部と申します。4月から仰せつかっております。不慣れではありますが、よろしくお願いいたします。

清掃業務は非常に多岐にわたっていると認識しておりまして、当改良区におきましても大きな排水路、小さな排水路合わせまして約1,300キロを管理いたしております。そこにごみが流れてくるため、処理をしており、非常に大きな経費がかかっております。また、高速道路も管轄内に関越道、磐越道、それから日本海東北自動車道が入ってきておりまして、その沿線あるいはガード下や、先ほど申しました水路湖畔に不法投棄があります。このような不法投棄を少しでも啓発して少なくしようということで、平成19年度から不法投棄対策連絡協議会を立ち上げまして、6月の第1土曜日に郷内一斉清掃を実施しております。新潟市の皆さんからは、さまざまな面からご協力、ご支援をいただいておりますので、この席をお借りしましてお礼申し上げます。いづれにいたしましても清掃事業は極めて重要な事業と認識しておりますので、これから皆さんからご指導いただきながら一緒に務めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。一言挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

- 石崎廃棄物政策課長補佐：ありがとうございました。

なお、渡邊理絵委員がお仕事の都合により平成29年5月31日付で委員を退任されましたので、ここでご報告させていただきます。

それでは、議事に移らせていただきます。本日の会議は14名中10名の委員がご出席ですので、新潟市清掃審議会規則で規定しております委員の定数の半数以上の出席を満たしており、会議が成立しております。

ご発言の際にはマイクのボタンを押し、ランプが光ったことを確認してからご発言くださるようお願いいたします。なお、会議録作成のため、本審議会は録音させていただいておりますので、ご了承ください。

この後は会長より議事を進行していただきたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

1. 議事

■近年のごみ量の推移等について

事務局説明

- 山賀会長：皆さん、おはようございます。天候の悪い中、ご出席くださりありがとうございます。それでは、議事を進行させていただきます。

まず、議題（1）近年のごみ量の推移等について、事務局から説明をお願いいたします。

- 伊藤廃棄物政策課長：それでは、改めましておはようございます。今年の4月から廃棄物政策課長になりました伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、近年のごみ量の推移などについて説明いたします。**資料1**をご覧ください。初めに、各年度における家庭系ごみと事業系ごみの排出量の推移でございます。左上のグラフ1が家庭系、左下のグラフ2が事業系の推移を表しております。家庭系のごみ量は、平成20年6月のごみ減量制度の開始以降、市民の皆様のご協力によりましてごみと資源の分別が進んだ結果、現在は制度開始前の平成19年度に比べまして約3割減少しております。近年はほぼ横ばいで推移しておりましたが、平成28年度の1人1日あたりのごみ量は488グラムとなりまして、前年度と比べまして12グラム減少しております。平成28年度の家庭系ごみ排出量は、棒グラフの青色の収集ごみが13万3,397トン、ピンク色の直搬ごみが1万1,000トン、黄色の資源物が4万1,501トン、緑色の集団・拠点回収が3万1,608トンであります。家庭系ごみの総量は21万7,506トンとなっており、前年度と比較しまして5,318トン、2.4%の減少となりました。また、家庭から施設へ直接搬入されるごみは前年度と比較いたしまして375トン、3.3%の減少となっております。

赤色の折れ線グラフは、各年度における1人1日あたりのごみ量でございます。先ほども触れましたが、平成28年度では488グラムと27年度から12グラム減少しております。

平成28年度の家系ごみ減量に関する主な取組みといたしましては、情報紙サイチョプレスの発行、ごみ減量検定といった啓発事業などを実施するとともに、段ボールコンポストの販売拠点の増設、ごみ分別アプリの運用や使用済小型家電の回収など市民のリサイクルに向けた取組みを推進いたしました。詳細は議題（2）で説明させていただきます。

次に、グラフ2 事業系ごみの排出量の推移でございます。平成28年度の事業系ごみ排出量は、棒グラフのピンク色で表示されています。許可ごみが約7万5,863トン、緑色の直搬ごみが2,536トン、黄色の公共ごみが2,686トン、一番上の青色の資源物が723トンであ

り、総量は8万1,808トンとなっております。純粋に事業所から輩出されましたごみは、許可ごみと直接搬入ごみを合計いたしました7万8,399トンとなっております。前年度と比較いたしまして175トン、0.2%の増加となっております。平成28年度の事業系ごみの主な取組みといたしまして、市で受け入れている事業系ごみのルールや資源化ができるごみのリサイクル方法を明確にいたしました事業系廃棄物処理ガイドラインに基づきまして、ごみ処理施設への搬入規制や展開検査を実施し、市の施設への排出抑制と資源化への誘導に努めました。

続きまして、グラフ3 家庭系ごみ月別排出量の推移（平成29年度速報値）です。三角の折れ線は、平成27年度から29年度の各月におけるごみ量を表しております。赤色の折れ線が今年度の4月と5月の速報値となっております。直近5月は1万3,370トンでございます。丸色の折れ線は資源量を表しております。直近5月は4,721トンとなっております。棒グラフは各月における1人1日あたりのごみ量を表しております。赤色が平成29年度の速報値で、直近5月が536グラムとなっております。また、前年度の同じ月と比較いたしますと4月は減少、5月は増加しております。これは前年度に比べまして、4月は収集日が1日少なく、5月は1日多かったことが一つの要因と考えております。また、家庭系ごみ排出量の4月と5月、2か月分の合計では、前年度と比べまして532トンの減少となっております。今後も各種施策を実施するとともに、広報紙などを用いた啓発によりましてごみの減量とリサイクルを推進してまいります。

次に、リサイクル率でございます。リサイクル率は、ごみの総量のうちどれだけの量がリサイクルされたかを表しております。平成28年度のリサイクル率は28%となっており、前年度と比較いたしまして0.1ポイント増加いたしました。ごみ集積場での資源物の回収量、集団・拠点回収量ともに前年度より減少いたしましたが、ごみの総量も減少しておるため、リサイクル率は上昇しております。

平成28年度の家系ごみ量及び事業系ごみ量につきまして、資料右下の枠の中にまとめてありますので、後ほどご覧ください。

次に、**資料1 参考資料**政令市における1人1日あたりのごみ量（平成27年度）をご覧ください。毎年、環境省で行っている一般廃棄物処理事業実態調査の結果に基づく全国に20ある政令市の平成27年度のごみ量について、1人1日あたりのごみ量を合計の少ない順に一覧にいたしました。なお、ここで1人1日あたりのごみ量は、注釈にありますようにごみのほか、資源物や集団資源回収、事業系一般廃棄物も含んだものとなっております。先ほどの**資料1**グラフ1の1人1日あたりごみ量とは計算方法が異なっていることにご注意ください。

新潟市の1人1日あたりのごみ量の合計は1,037グラムであり、政令市の中では15番目ですが、リサイクル率につきましては千葉市に次ぎまして2番目に高い率となっております。これは、10種13分別によりまして、ごみと資源の分別が進んだ結果であり、とりわけ他都市ではあまり行われていない枝葉・草の資源化がリサイクル率を上げていると考えられます。

以上で説明を終わります。

■近年のごみ量の推移等について

質疑・応答

- 山賀会長：ありがとうございます。ただいまの説明についてご質問ありますでしょうか。八子

委員、お願いします。

- 八子委員：八子です。資料1 参考資料でお話しいただきましたところで、私は総人口の似たようなところと比べて見ておりますが、新潟市は静岡県浜松市と概ね似たような総人口であります。その二都市の生活系の1人1日あたりのごみ量を見ると、新潟のほうがまだ若干多いと感じております。リサイクル率は、さきほどお話しになったような枝葉や除草ごみの資源化や、一昨年から雑がみにも取り組んでおられるのだとは思いますが、やはり市民の意識として私が自分の地域のごみ集積場を見ている限りはまだまだだということ実感しております。このあたりをもう少し何とか分別して減らしていければいいと思っておりますが、いかがでしょうか。
- 山賀会長：お願いします。
- 伊藤廃棄物政策課長：雑がみにつきまして、各都市で苦労されているようでございます。雑がみを集めるだけの専門の袋をつくるなど、努力しているところもございますので、参考にしてやっていきたいと思っております。また、新潟市は政令市の中でごみの排出量が多いですが、やはり地域特性が少しあるのではないかとということで、日本海側の都市の排出量を調べてみましたが、そうするとやはり同じような量を出している傾向がございます。また、新潟というのはこの前も報道か何かで出ておりましたが、野菜を非常に多く摂取しているということで、購入が全国でも一番多いというところもございます。特に新潟は枝豆や根野菜を多分相当量とっているということもございますので、そのあたりの生ごみもやはり大きく影響しているのではないかと私は思っております。ただ今後、さまざまな啓発で減らしていくような努力はしていかなければならないと思っております。
- 山賀会長：ありがとうございます。他はいかがでしょう。斎藤委員。
- 斎藤委員：ごみの分別、それからごみ袋の中から資源物を出そうという取組みで、私は角田地区コミュニティ協議会の中のエコ環境部で活動していますが、先日小学校から出前授業の依頼がありまして、小学校4年生の特別授業のところでその話をしてくれないかというところで少し話をしてきました。やはり家庭の中でも温度差があり、例えばプラマーク容器包装の分別や、雑がみの分別をしていますかと聞くと、していますというご家庭とごみに出してしまっていますというご家庭があり、やはりこれは捨てる前に、これはごみなのか、資源物なのかと考えてから、なるべくごみを少なくしようというところで話は落ちつきましたが、子供たちは非常に素直なので、この地区は海岸清掃などに学校単位でも取り組んでいますし、そういった意識については高いので、小さい地域ではありますが、少しずつ取組みはしています。小学校4年生用の冊子もあるので、それもいただきまして、配りました。やはりごみの行方はみんなが気になっているようで、皆さん真摯に取り組んでおりました。子供たちがこれはごみなのか、それとも資源物なのかということをおわっていると自然とごみも減ってくるのではないかと思います。また、ごみ拾いをしていると捨てる子も少なくなるのではないかと期待を持ちながら、私たちが春の巻漁港の海岸清掃や、小学校の海岸清掃などを通じて、昨日も海岸清掃に参加してきましたが、機会がやはり前に比べて非常に増えていると思います。そういった意識を持つということが一番大切なので、サイチョプレスをはじめ、さまざまなものにこれからも取り組んでいってほしいと思いました。
- 山賀会長：事務局、ありますか。
- 伊藤廃棄物政策課長：確かに雑がみは非常にわかりにくいということもありまして、私の家では雑がみ専用の袋を設けて分けております。私はクリーンにいがた推進員もやっていますが、そう

いったところも含めまして皆さんにわかりやすく分け方を啓発していかなければならないと思っております。

- 山賀会長：他はいかがでしょう。私からですが、ここ数年横ばいだった1人1日あたりのごみ量が昨年非常に減ったというところで、どのような要因があるか、新潟市の分析はどのようになっているかを少し皆様にお聞かせいただけますか。
- 伊藤廃棄物政策課長：細かな分析はまだできていませんが、今月の初めごろに新聞報道にも出たと思いますが、総務省の統計局のほうから15か月連続で家庭系の消費が落ち込んでいるという傾向が出ておりました。そのようなことも若干影響しているのではないかと私は個人的に思っております。また、本来であればここで私どもの啓発がうまくいって減っていると言うことができればいいのですが、そこまではまだ言えないかと思えます。やはり消費動向が若干節約傾向にあるのではないかということは少し懸念しておるところでございます。
- 山賀会長：八子委員。
- 八子委員：巻分別モデル収集が進んできて、うまくいってきているのだなということで、おそらくそのことも関連があるのかもしれないと思ったのですが、いかがでしょうか。
- 山賀会長：事務局、お願いします。
- 伊藤廃棄物政策課長：巻分別モデル収集は現在、96%の方に協力していただいておりますので、若干影響はあるかと思えますが、ごみの総量からすると燃やさないごみはそれほど多くないものなので、1人1日あたりのごみ量が12グラム減少するところまでに影響が出ているとは少し言えないかと思えます。やはり全ての区で減少しているという傾向でございますので、一因ではあると思えますが、全体を押し下げるところまで影響は出ていないかと思っております。
- 山賀会長：ありがとうございます。他はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

<なし>

■廃棄物関連施策の進捗状況について

事務局説明

- 山賀会長：続きまして、議題（2）廃棄物関連施策の進捗状況について、こちらも事務局から説明お願いいたします。
- 伊藤廃棄物政策課長：それでは、廃棄物関連施策の進捗状況について説明いたします。
最初に、**資料2**ごみ分別アプリの概要についてです。**資料2**をご覧ください。ごみ分別アプリは、平成27年3月にごみに関するさまざまな情報を手軽に入手できるようスマートフォン用のアプリとして公開いたしました。主な機能といたしまして、（1）ごみ分別検索、（2）ごみ収集カレンダー表示、（3）ごみ出し日のお知らせアラーム設定、（4）ごみの分け方・出し方解説、（5）資源物回収拠点の検索があります。平成29年6月末現在でございますが、累計で1万8,652ダウンロードとなっております。昨年の6月末時点では1万3,657ダウンロードでございましたので、1年間で約5,000ダウンロード増えているという状況でございます。利用されている方々からは、分別で困ったときにすぐに調べることができ、便利であるなどの声をいただいております。また、若い方の利用が多いかというイメージですが、お年寄りも利用されているということでございます。昨年度はアプリが利用できない一部のタブレット端末に対応する

ために改修を行い、アプリ対応端末の拡大を図っております。アプリの広報といたしまして、サイチョプレスで定期的にお知らせしているほか、クリーンにいがた推進員研修会や大学などでの説明会での周知、バス車内放送、電車内ビジョン広告など民間の広告媒体を活用いたしまして多くの方に知っていただき、利用していただけるよう広報を行っております。また、燃やすごみ、燃やさないごみの新潟市ごみ指定袋でございますが、こちらの外装にアプリをダウンロードしていただけるようロゴ、QRコードを表示して周知に努めています。また、それ以外にも、私どもが独自につくっている封筒にもQRコードを表示しております。

次に、**資料3**マイボトルキャンペーンについてです。マイボトルキャンペーンは、3Rのうち最も優先順位の高いリデュース、ごみの発生抑制でございますが、その意識定着の一環といたしまして、マイボトルの普及を通じて市民、事業者双方のごみ減量意識を高めることを目的として実施しております。6年目となる今年度でございますが、マイボトルに飲み物を提供する店舗やマイボトルを販売している店舗、合計159店舗からご協力をいただき、平成29年7月1日の土曜日から平成30年6月30日土曜日までを3Rシティにいがたマイボトルキャンペーン2017-18とする通年事業として行っております。また、昨年度に引き続きましてにいがた未来ポイントとも連携して実施しています。店舗名やサービスなどが掲載されたマイボトルライフガイドを市の施設やキャンペーン参加店で配布しているほか、各種の広報で周知を図っております。また、今回もスタンプラリーを行っており、地産地消品やオリジナルグッズが当たる抽選会も実施します。今年度からは各回お一人様10口までと応募の上限を設けることで、より多くの方が当選できるよう変更しております。にいがた未来ポイントとの連携では、スタンプがたまったらはぎとバスのICカード「りゅーと」、または「おサイフケータイ対応のスマートフォン」を区役所にお持ちいただくと、マイボトルキャンペーンでためたスタンプ5個1口につき、にいがた未来ポイント100ポイントを発行しております。キャンペーンをきっかけにマイボトルを利用する人が増え、ごみ減量意識が高まるよう継続して事業を実施してまいります。

次に、**資料4**使用済小型家電の回収・処理事業についてでございます。使用済小型家電のリサイクル事業では、燃やさないごみとして処理されていた小型の家電製品を回収いたしまして、レアメタルを含む有用な金属等をリサイクルしております。当事業は、障がい者団体に回収及び処理を行っていただいております。小型家電の選別、分解作業は、障がい者の就業訓練ともなっており、資源循環だけでなく、障がい者雇用にも寄与しております。平成28年度には52か所で回収を行い、平成27年度に比べ6.3トン、31.8%の減少、年間13.5トンでございました。また、拠点回収とは別に、市民の利便性の向上と、排出機会の多様化を図るために平成27年9月に開始いたしました宅配便回収では、平成28年度は3.7トンを回収しております。宅配便回収につきましては、初年度となった平成27年度は告知効果もありまして、回収量が一定量あったと思っております。小型家電は貴重な金属資源が含まれており、一般的には都市鉱山とも言われておりますが、サイチョプレスや各種イベントで事業の周知を図りまして、回収量の増加に努めていきます。また、宅配便回収は回収拠点まで小型家電を持ち込まなくてもリサイクルできるほか、回収拠点よりも少し大きなサイズの3辺合計が140センチメートル以下の箱に入るパソコンや小型家電を出せることから、市の拠点回収を補完するものと考えております。

続きまして、**資料5**生ごみ減量・資源化施策の進捗状況についてでございます。燃やすごみの約4割を占める生ごみの減量、資源化につきましては、平成23年度から取組みの強化を図って

おります。内容を、1 生ごみ減量対策事業の実施状況についてでまとめてあります。

次に、2 事業の概要及び実績についてでございます。

(1) 生ごみ処理機器の購入費補助では、家庭から排出される生ごみの減量及び資源化を促進するとともに、ごみ問題に対する市民意識の高揚を図るため、コンポスト容器など家庭用の生ごみ処理器の購入者に対しまして補助金を交付しております。

(2) 生ごみ減量運動推進事業では、市民一人ひとりが自らのライフスタイルに合った方法で生ごみ減量に取り組めるよう水切り講座など、各種講座を開催するとともに、さまざまな減量方法を紹介するマンガ版ガイドブックを出前講座やイベント時に配布いたしました。また、生ごみ減量方法を映像でわかりやすく紹介した生ごみ減量DVDは、図書館などで貸し出しを行っております。

(3) 乾燥生ごみ拠点回収事業でございます。電動生ごみ処理機の普及を図るため、市内10か所の拠点で乾燥生ごみを回収いたしまして、舞平清掃センターで堆肥化を行っております。できた堆肥は、希望者に無料で配付しております。

(4) 食品リサイクル地域活動支援事業でございます。初めに、①地域における生ごみ堆肥化活動では、平成24年度から江南区の亀田地区で農産物直売所に協力をいただきまして、堆肥化活動を開始いたしました。平成27年度には江南区での取組み成果を踏まえまして事業内容を強化し、同年7月から新たな拠点といたしまして南区と西蒲区に生ごみ処理機を設置し、地域の堆肥化活動を支援する循環ループを拡大しております。これにより堆肥化の拠点は3か所となりまして、会員数も増加しております。今後もさらなる会員数の増加を図るために、サイチョプレスなどによる広報を実施してまいります。

次に、②段ボールコンポストの普及でございます。家庭で手軽にできる生ごみ資源化方法といたしまして、市オリジナルの段ボールコンポスト、サイチョのマジックダンボールを製作し、平成27年10月から販売を開始いたしました。平成28年6月には継続利用者向けに基材のみの販売も開始しております。また、販売拠点も拡充しております。今後も引き続き使い方講座を開催いたしまして、広く市民への普及を図ってまいります。

次に、(5) 学校給食残渣の飼料化と堆肥化についてでございます。平成27年7月に公表されました食品循環資源の再生利用等の促進に関する基本方針において、再生利用方法の優先順位が定められまして、1番目が飼料化、2番目が肥料化、3番目がメタン化等のエネルギーの再生利用と明記されております。市では学校給食で発生いたしました調理残渣や食べ残しについて、平成16年度から堆肥化、平成24年度から飼料化を開始し、再生利用しております。飼料化については養豚業者で、堆肥化につきましては舞平清掃センターと民間施設で行っており、食品廃棄物が循環的に利用されるよう取り組んでまいります。

続きまして、一般廃棄物処理計画における今後の取組みといたしまして、昨年度の本審議会におきまして一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて諮問し、2月に答申をいただいております。①家庭系ごみのさらなる減量、②事業系ごみの減量、資源化、③ごみ量の減少に伴う効率的な処理体制の確立、④災害対策、以上4つの取組みを最終目標年度までの重点課題として整理し、答申を踏まえた今後の取組みを確認いたしました。実施にあたり、予算の確保が必要なものや新たに事業計画を立てなければならないものなどは次期基本計画へ反映できるよう検討を進めていく予定でございます。

それでは、資料はございませんが、巻広域地区の普通ごみの分別収集の進捗状況についてご報告いたします。昨年6月から開始いたしましたモデル事業でございますが、今年の6月からは新たに西区の四ツ郷屋自治会、西蒲区松野尾地域コミュニティ協議会の全自治会、同じく西川地域コミュニティ協議会の全自治会、このほか峰岡地区の峰岡自治会、上畑団地自治会、岩室地区の富岡自治会、角田地区の越前浜自治会の皆様に新たに加わっていただきまして、巻広域地区全体の96%の世帯から参加していただいております。実施にあたりまして、西蒲区コミュニティ協議会事務局長会議、西川地区コミュニティ協議会のほか、各自治会、町内会など延べ42回、約1,100名の方から説明会に参加していただきました。多くの皆様からのご理解とご協力をいただけた結果だと感謝しております。分別の統一につきましては、このように多くの方からご理解をいただいている状況でございますので、今後は平成30年度の制度統一に向け、関係例規の改正など準備を進めてまいります。

以上で説明を終わらせていただきます。

■廃棄物関連施策の進捗状況について

質疑・応答

- 山賀会長：ありがとうございます。ただいまの説明につきましてご質問等ありますでしょうか。斎藤委員。
- 斎藤委員：私が住んでいる地域はまさに分別モデル収集地域で、角田浜は昨年から、隣の越前浜は今年の6月から始まりました。また、この42回の説明に入っているかはわかりませんが、市政さわやかトーク宅配便も申し込みまして、分別に対する説明や、不明点なども説明をいただきました。お聞きしたいのは、まだ始まったばかりですが、モデル収集地区での分別収集は順調で、進捗状況も問題ないということですが、違反など、燃やさないごみの中に何か別なものが入っていたということがあれば教えていただきたいです。
- 山賀会長：事務局、お願いします。
- 伊藤廃棄物政策課長：確かに間違っただけが入っているという状況はあると思います。ただ、最初から全て完璧というのは難しいので、現在の有料化を実施したときにも最初は間違いがあったと思いますので、これから皆さんにご協力いただけるように、また再度啓発等をしていかなければならないと思っております。また、来年の4月からスタートしたとしても、すぐに違反ごみだからといって違反シールを貼って持っていけないとすることは難しいと思っておりますので、少しずつ皆さんにわかっているように、さらに周知に努めていきたいと思っております。
- 斎藤委員：ありがとうございます。部の活動としても地域のごみ集積場にポスターなどを掲示しようかと思ったのですが、間違いやすいようなものがあつたら教えていただきたいと思っております。
- 山賀会長：お願いします。
- 伊藤廃棄物政策課長：ポスターなど、こちらからお知らせできるものがあれば、おっしゃっていただければ提供したいと思います。
- 斎藤委員：ありがとうございます。
- 山賀会長：ほかにご質問やご意見等ありますでしょうか。特にないですか。よろしいですか。八子委員、お願いします。
- 八子委員：私もこれで6年間審議委員をやっておりますが、本当に年々進化して、マイボト

ルキャンペーンも随分変わってきたなと思います。本当に職員の方が我々の意見や、外部からの意見なども含めてそれらをよく吸収して、何とか実現していこうという姿勢を見ることができ、本当に他の委員会にはないすばらしさだなと感じています。ごみというのは日々我々の生活に密着しているので、そうあらねばならない部分もありますが、それにしてもうれしい内容だなと思います。ご苦労さまです。

- 山賀会長：何か事務局のほうでありますか。
- 伊藤廃棄物政策課長：ありがとうございます。
- 山賀会長：中澤委員、お願いします。
- 中澤委員：先ほど斎藤委員がおっしゃった昨年と今年度から分別モデル収集地区に新しい地域が加わったということで、新潟市の場合も平成20年のごみ減量制度が始まる時に私もクリーンにいがた推進員をやっていました。そのため、おそらく新たにモデル収集に加わった地域にもクリーンにいがた推進員の方がいらっしゃると思うので、ご助言いただいたり、監督していただいたりして、やはり今までは全て同じ分別でしたから急に慣れるのは難しいと思いますので、徐々にそうなるように大きな目で見えてあげてほしいと思います。もう元ができていて、おそらく市もわかりやすい看板などを作っていると思うので、ぜひそういった方法でやっていただきたいと思います。
- 山賀会長：ありがとうございます。他はありますか。

<なし>

■平成29年度市民還元事業予算について

事務局説明

- 山賀会長：では、特になければ、続きまして議題（3）に移ります。平成29年度予算ごみ処理手数料の市民還元事業について、事務局から説明をお願いします。
- 伊藤廃棄物政策課長：それでは、最後の議題（3）ごみ処理手数料の市民還元に関する本年度事業について説明いたします。

配付しております資料6「平成29年度予算ごみ処理手数料の市民還元事業について」をご覧ください。有料化に伴うごみ処理手数料収入につきましては、資源循環型社会促進策や地球温暖化対策、地域コミュニティ活動の振興に充てることで市民の皆様へ還元することとしております。平成29年度市民還元事業は、クリーンにいがた推進員の育成事業や古紙の集団資源回収奨励金など14事業でございます。これは、平成28年度当初予算とは変わっておりません。

平成29年度の市民還元額は、歳入のごみ処理手数料収入から歳出の1番、指定袋作製等経費を差し引いた金額で、2番、平成29年度市民還元事業の下、小計①から⑭に記載しております5億5,174万円を見込んでおります。

以上で市民還元事業の説明を終わります。

■平成29年度市民還元事業予算について

質疑・応答

- 山賀会長：ありがとうございました。ただいまのご説明に対して質問等ございますか。星島委員、

お願いします。

- 星島委員：歳出の方で⑭の市民生活部所管の支援がありますが、具体的に何かお聞かせいただける内容はありますか。
- 山賀会長：事務局、お願いします。
- 伊藤廃棄物政策課長：こちらの所管は市民生活部でございますが、地域活動でいろいろやっている団体へ補助金等出しているということを伺っております。細かなところは、今は手持ちの資料がございませんので、後ほどどのように使用しているかを資料でお知らせするという事によろしいでしょうか。
- 星島委員：よろしいです。
- 山賀会長：斎藤委員、お願いします。
- 斎藤委員：実は私たちの活動もこの補助金を使わせていただいています。私たちの場合ですと、年間を通じてごみ減量対策に対する視察研修や、小学校に出かけて行ってPR活動とエコ活動を推進するような活動の資金に使用しており、1年間で20万円という枠ですが、その中で補助金をいただいて勉強をしています。ほかの部でも地域に対する活動で、補助金をコミ協でいただいているところもあります。これは、一部だとは思いますが、活動を補助していただいております。
- 山賀会長：事務局、お願いします。
- 伊藤廃棄物政策課長：資料がございました。細かなものを言いますと、例えば地域の交流イベントや、コミュニティカレンダー、伝統文化の保存事業、コミュニティ協議会の広報紙の作成、地域計画の策定、環境美化、防災や防犯などの活動も補助しております。大まかに地域のコミュニティや、ごみ関係、防災関係などに使われているものが多いと思っております。
- 星島委員：この補助金は9億2,000万のうちの1億で、相当ウエートが高い項目のため、もう少し大項目だけでも記載していただきたいと思っております。
- 伊藤廃棄物政策課長：わかりました。次回からそのようにさせていただきます。
- 山賀会長：ありがとうございます。ほかにご質問やご意見等ございますか。特にないでしょうか。中澤委員、お願いします。
- 中澤委員：⑬のごみ出し支援が非常に増えています。それは高齢化社会になってきたからでしょうか。減るのはいいですが、少し増えている部分が⑬ごみ出しが困難な世帯に対する支援活動です。これは使われる方が多くなったということでしょうか。そう理解したらよろしいでしょうか。
- 山賀会長：事務局、お願いします。
- 内藤廃棄物対策課長：対策課長の内藤でございます。今ほどごみ出し支援ということで、平成27年度より市民向け事業実施の都度、制度周知を図り支援団体を募った結果、平成27年、平成28年は登録団体数が伸びましたが、増加の見込みについては平成27年度152件、28年度179件で平成29年度は前年に比べ6件ほどの増加と見込んでおり、急激に増えるということとは想定しておりません。
新潟市は市民還元事業として先行してごみ出し支援を実施していたということですが、介護保険の制度でも同種のものができたため、福祉の介護保険の制度との整合性をとりながら、必要なところには支援をしていくということを考えており、激増するということとは想定しておりません。
- 山賀会長：八子委員。

- 八子委員：私の地域では最近救急車が来ることが非常に頻繁になっております。そして家庭の様子を見ていまして少人数の家庭が非常に多く、息子さんがお母さんを見ながら、ごみ出しをしながら分別もする時代です。女性の方は、子どもの頃からやってきたと思いますが、息子さんが頑張っているというような状況のところもあります。それで、防犯灯の設置などは定着してきているので、費用的には減少傾向なのではと見ています。私も含めて2025年は団塊の世代が急増する時代に入るので、それを見据えるとごみ出し支援がこれからは増えていくということを視野に入れて対策を考えていかなければならない時代になるのではと危惧しております。
- 山賀会長：お願いします。
- 内藤廃棄物対策課長：委員がおっしゃる通り、需要がなくならないことは間違いないのですが、介護保険という全国統一の制度の中で同種のもので導入されているところですので、市民還元の事業を増やすということではなく、介護保険の制度と整合性をとりながら、市民還元事業として必要なところに補助していくことを考えております。
傾向として高齢者の世帯が増え、ごみ出し等の日常的生活で困る方が出てくるのは当然のことですが、介護保険の制度でも同種のものでできたため、そちらの利用と整合性をとりながら私も引き続き還元事業としてやっていくということで考えております。
- 八子委員：介護保険制度のごみ出し支援と新潟市市民還元事業のごみ出し支援の違いが少しまだ不確かなもので、もしおわかりであればご説明いただければありがたいと思っております。
- 内藤廃棄物対策課長：介護保険の制度は開始したばかりで利用団体も少ないようですが、メニューの中にごみ出し支援を含む地域支援事業があります。新潟市は市民還元事業としてかなり先行して実施しておりますので、介護保険の制度と整合性をとりながらということになりますが、今現在、実際に支援を必要とされている方がいらっしゃれば、積極的に市民還元事業で支援していく考えです。
- 八子委員：ありがとうございます。介護保険制度が定着するまでの間ということで考えてよろしいでしょうか。ありがとうございます。安心しました。
- 山賀会長：ほかにご質問、ご意見等ありますか。

<なし>

- 山賀会長：特にないようですので、審議はこれで終わります。

2. 連絡事項等

- 山賀会長：以上をもちまして、本日の審議を終了いたします。
皆様ご承知のとおり、現在の委員の皆様の任期が9月30日で終了いたします。これまでお忙しい中、当審議会の審議にご参加いただきまして、またさまざまな貴重なご意見をいただきました。市のごみ処理行政に貢献してくださったことを改めてお礼申し上げます。本日が現在の委員での最後の審議会となりますので、皆様よりご挨拶いただければと思います。よろしくお願いたします。
では、柴田委員からお願いいたします。
- 柴田委員：柴田でございます。私は、長くやらせていただいておりますが、ここ最近では職場のほ

うの仕事が急に忙しくなりまして、なかなかこの会に出られず、非常にご迷惑をかけて申し訳なかったと思います。この委員をさせていただいて、ある意味で行政の中から見させていただいて、非常に私自身も勉強になりました。1つは、非常に職員の方が真摯に対応されているということと、それから一番印象に残っているのは処理場の施設を見学させていただいたことです。何年前だったと思いますが、非常にそれは私自身も勉強になって、よかったです。本当にありがとうございました。

- 山賀会長：ありがとうございました。続いて、住吉委員、お願いいたします。
- 住吉委員：ごめんください。住吉でございます。私は去年前任者が急遽交代してほしいということで、ピンチヒッターという役割と意思つつやっていましたが、清掃審議会の内容でいろいろな意見が出た中で、ここで出た意見などをまた市で考えて、また新たにというような、非常に活性化している会議だと思っておりますし、また市の職員の方が本当にきちんと答えてくださるような姿勢が改めて素晴らしいなと思っております。私の職場がすぐその新潟大学保健学科で、隣に大病院もございまして、そちらのごみ問題というのもいつも頭を悩ませているところでもありますし、新潟大学の環境というところの1%を減らすにはどうしたらというような、本当に厳しい中でやっているところもありますので、それとあわせて見たりなどしまして、非常に勉強になったなと思っております。本当にありがとうございました。
- 山賀会長：ありがとうございました。では、阿部委員、お願いします。
- 阿部委員：皆さん、ご苦労さまでございました。私は今回初めて参加させていただきましたが、本当にごみはすぐ自分の周りにあることですが、ついつい、おろそかにしております。また、農業関係でもさまざまごみが出てきております。竹林や、あるいは野菜の残渣など、そういうものの処理もやはり全体で考えていかなければならない時代だと思っております。これを機会にまた勉強させていただいて、当改良区のごみ問題もございまして、それらに真摯に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。
- 山賀会長：ありがとうございました。では、片粕委員、お願いします。
- 片粕委員：皆様、どうもお疲れさまでございます。片粕と申します。私は一昨年12月に新潟市に引っ越してまいりまして、その2か月後くらいに清掃審議会の委員ということで市からご依頼をいただいたという事の次第でございます。今まで、事業系のごみにも仕事上携わってまいりましたし、もちろん市民として家庭のほうのごみもかかわっているということですが、本当に表面的なものしか見てきませんでした。こちらに参加させていただいて、まだまだ本当にわからないことで、委員の方のご意見を聞いたり、ご説明いただいたりということで1年間勉強させていただいた年であったと思っております。今後はこれを生かしまして会社でも5Sということで無駄なものを置かないということで取り組んでまいっておりますので、そういったところにも生かして、先ほど説明にもあった通り、事業系のごみは横ばいということでございますが、やはり企業のごみに携わる者として少しでも減らしていく努力を今後も続けていきたいと思っております。本当に1年と少しでしたが、ありがとうございました。
- 山賀会長：ありがとうございました。では、斎藤委員、お願いします。
- 斎藤委員：斎藤です。一昨年公募させていただきました。地域でもごみ問題に取り組んでいまして、会社では事業系のごみにかかわることもあります。地域では毎年いろんな施設研修を行っています。また、それだけではなく、この中からいろいろな方の意見をいただいたり、情報をいた

だいたりしてまた還元できましたので、本当に勉強になりました。ありがとうございました。

- 山賀会長：ありがとうございました。では、高橋委員、お願いします。
- 高橋まゆみ委員：高橋です。皆さんお疲れさまでした。私は6年ほどお世話になっておりました。私は新潟市の食生活改善推進協議会というところでボランティアをしております、よく学校で調理実習を行っています。そこでもなるべく生ごみが出ないように、食材の野菜の皮を使ったりするお料理や、ナスの皮やニンジンの皮をピーラーでむいたら、それを捨てずに少し日に当てて干して、それをまた料理に使おうなど、そのようなことを子供たちにお話ししてきていまして、それも本当にこの委員会の中に加わらせていただいて、行政の皆さんが一生懸命ごみ減量化に取り組んでいる姿勢を見て、大人ももちろんですが、やはり実際生活する子供たちにごみの減量という意識を強く持っていただきたいと思っておりました。本当に私は自分のためになった委員会だったと思います。本当に皆様お世話になりました。ありがとうございました。行政の皆様、本当に私たち一人ひとりの話をきちんと真摯に受けとめてくださって、反映してくださって、きわめつけはやっぱりサイチョプレスができたということが本当にすばらしいと思いました。本当にありがとうございました。以上です。

- 山賀会長：ありがとうございます。では、中澤委員、お願いします。
- 中澤委員：中澤でございます。私も商工会議所から推薦を受けまして、6年ほど審議会の委員をやらせていただきました。初年度のごみの制度が変わるときにちょうどクリーンにいがた推進員をやったので、多少は意見を出せるかと思いましたが、本当に知らないことばかりありまして、また生活にはごみは欠かせない一番大事な分野だと思いますが、そういう意味ではごみに対する意識がここで勉強させていただきながら高まっていったのではないかと思います。本当に皆さん2年間ありがとうございました。

それと、本日欠席であります菊野委員からも皆さんによろしくお伝えくださいということですので、ここで述べさせていただきます。ありがとうございました。

- 山賀会長：では、星島委員、お願いします。
- 星島委員：星島でございます。私どもは民間企業で製造販売をやっておりまして、私も2年ちょっと参加させていただいておりますが、ここへ参加する前に転勤で宇都宮に4年ほど着任していました。そちらは分別するような地区でなく、ごみは何でもいいという感じで、地域によっては大分差があると感じて、また新潟に戻ってきた次第でございます。ただ、私ども製造販売をしている上では産業廃棄物がつきまっております、これも国のほうから厳しく指導されております。民間といえども広域的な仕組みを私どもも勉強させていただいて、少しでも失敗しないように努めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。
- 山賀会長：ありがとうございます。では、八子委員、お願いします。
- 八子委員：では、最後になりました。いつもつまらない意見ばかり言っていた記憶があります。6年間お世話になりました。今日は掛川委員がいらっしゃらないので、少し残念に思います。というのは、掛川委員が先々回の審議会で、ボランティア活動をもう少しPRしてほしいというような発言をされましたが、それが日曜日の市報だよりも清掃ボランティアを含めたさまざまな活動が載っております、掛川委員が見ていらしたらさぞかし喜んだであろうかなと思っております。私も退職して、自治会の副会長として環境関係をやり、その頃勉強のために清掃審議会も聴講させていただいたことがあります。そのあたりから清掃については少し関心を持って、さまざま

まな形で取り組んできました。本当に多くの委員の方がおっしゃったように、ごみというのは日々の生活の中でどうしても切り離せない部分があります。それを行政の方は即対応していただいているなということは、他の委員会とは違うという認識でおりました。私は県の地球温暖化対策地域推進委員という仕事もしておりますので、その関係からもさまざまな視点で資料を見させていただいて、発言をさせていただきました。本当に今朝の豪雨も環境の影響かと危惧しております。さらに、我々はそういった意味でもしっかりとごみ問題にも取り組んでいかなければならないわけで、ただ環境をきれいにするとか処理するだけでなく、疫病発生などさまざまなことにもかかわってくるので、私は今期で退任いたしますが、次世代のためにも、一生懸命に陰ながら参加していきたいと思っております。

また、1つだけPRですが、2月頃に日経新聞に、セイコーエプソンという会社が世界初のオフィス製紙機を開発し、昨年12月から企業、自治体向けに販売をしていて、廃棄紙が3分で新しい紙になるというようすぐれもので、名刺やチラシ等を作ることができるということです。この製紙機を行政や企業に利用していただくと輸送コストも手間も不要になります。これから新潟市は特に高齢化に向かっておりますので、マイナンバーなどのセキュリティーの面でも非常にいいわけです。そういったことでCO₂の排出削減にもつなげられるということで、ぜひ新潟市でも調べられて、財政面で採算が合うようでしたらぜひ採用していただけるとありがたいと思っております。レンタルもできます。本当にいろいろとありがとうございました。

○ 山賀会長：ありがとうございました。

最後に、私から一言申し上げます。本当に皆様お疲れさまでした。私も前任の松原先生のご転居によりまして、急遽会長職という身に余る大役で、少しどきどきしておりましたが、本当に皆様が活発にご意見を出していただきまして、たくさん学ばせていただくことができました。そのおかげで市の政策もよりグレードアップした取組みにつながっていったのだろうと感じております。何人かの方がおっしゃいましたが、市は本当に真摯に取り組んでおられ、それをまた市民なり事業者が受けとめて廃棄物施策が進んでいくというところなのだと思います。まだまだできる気もしています。私も就任して長いですが、最初にこの委員を務め始めてご説明いただいたときに、空雑巾を絞るような感じでしかごみの量が減量できないとかがっておりました。しかし、去年は非常に減ったという結果となり、技術革新も進んでおりますが、さまざまな取組みをさまざまな方々が協力し合ってやることによって実現できていくことを感じております。去年の新潟市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画をつくる際にも市民と事業者と行政の協働によって環境3R都市をつくっていくことが大きく掲げられていまして、まさにこれからもそれを続けていかなければならないと思っております。本当にありがとうございました。ご苦勞さまでした。

それでは、事務局より連絡事項についてご説明お願いいたします。

○ 伊藤廃棄物政策課長：連絡事項の前に、皆様からいろいろとお褒めの言葉をいただきまして、ありがとうございました。これに満足することなく、またいろいろな施策をやっていきたく思いますので、皆様からもまたご協力いただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

それでは、事務局よりご連絡させていただきます。初めに、照会票でございます。これまでの審議会と同様でございますが、資料の最後に照会票を添付させていただいております。本日の審議会で質問できなかったことや後で気になったことがございましたら照会票に必要事項を記入していただきまして、事務局まで送付していただければと思っております。よろしくをお願いいた

します。

続きまして、先ほど会長からお話がありましたが、現在の委員での最後の審議会でございます。また、任期終了にあたりまして特別な手続はございませんが、委員の皆様にはこれまで非常にお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。感謝いたします。

- 山賀会長：ただいまの説明につきまして質問ございませんでしょうか。よろしいですね。

<なし>

- 山賀会長：それでは、これもちまして本日の審議を終了いたします。
進行を司会にお返しいたします。

4. 閉会

- 石崎廃棄物政策課長補佐：以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。ありがとうございました。